

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体 育	<p>重点目標</p> <p>自らきたえる子ども の育成</p> <p>手段</p> <p>1 進んで運動に 取り組む子を 増やす。</p>	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「昼休みは、元気に外で遊んでいますか。」の問いに対して81%が肯定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で運動したり、自分で歩いて登校したりしていますか。」の問いに対しては、90%が肯定的な意見であった。 ○ 本年度実施した新体力テストの総合評のD・E段階の児童は、男子が29.2%、女子が22.1%であった。男子は、目標値には届かなかったが、昨年度より減少している。種目別に見てもソフトボール投げや握力など、男女とも伸びが見られた。令和元年度県体力づくり「奨励賞」受賞。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ これから成長していく子ども達であるが、たくましく生きていくために、基礎体力は必要であると思う。自立できる体づくりは大切である。 ○ 体を動かす機会を増やしたり、安全に外遊びできる場所と時間を保障してあげることは、大人の役目であると思う。 ○ 県の体力づくり「奨励賞」おめでとう。 ○ 良好である。職員のさらなる努力をお願いしたい。 ○ 歩いて登校は、親の意識を変えないといけない。 ○ 運動会での集団行動、各人の係活動の節度ある動作を通して、日頃の指導の成果を伺うことができた。 ○ 学校生活の中では外遊びを楽しんでいるが、休日は中遊び（ゲーム等）が占める時間が多い。外で遊べる環境づくりが必要である。
	<p>2 最後までやり 抜く経験を 増やす。</p> <p>3 立腰を意識し、 実行できる子 を増やす。</p>	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「学習や係活動、手伝いなどに、最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して89%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、75%が肯定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で学習やお手伝いなどに最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して78%が肯定的な意見であった。 ◇ 日常的な取組や称賛により、児童に少しずつやり遂げる気持ちが高まってきている。家庭学習については、個人差があるので継続的な働きかけが必要である。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ よくできている。 ○ 児童は、お手伝いすることが好きだと思うが、大人がその気持ちを効率化のためにうばったりしていることが多いのではないかと思う。小さなことでも、ほめてあげて達成感を味わうと学習でも係活動やお手伝いでも意欲的に取り組むようになると思う。 ○ お手伝いも個人差がある。子どもにやってもらうより、自分でやった方が早いという親の気持ちがあるかもしれない。 ○ 職員が期待している値までは、児童が取り組んでいない。保護者が期待するほど家での取組が足りていない。期待しすぎず、「やり遂げる」ことを着実に実行できるようにすることが大事である。
		<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「授業中は、立腰の姿勢で話を聞くことができていますか。」の問いに対して72%が肯定的な意見であり、職員のアンケートでは、55%が肯定的な意見であった。 ◇ 毎時間の授業の始めと終わりに毎回、立腰を意識した指導を行っている。機会を捉えた指導の継続により児童の立腰についての意識は高まってきているが、常にその姿勢を維持することは難しい面がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 立志式の立腰はすばらしかった。先生方の指導のためものだと思う。 ○ 学習中、長時間立腰の姿勢を持続することは難しいと思うので、意識を促す教師の声かけを今後もお願いしたい。 ○ 学年により相違があると思うが指導を続けて卒業時にはできるように高めてほしい。 ○ 正しい姿勢の方が腰も痛くならないし、歩く動作も美しいことを教えたらいいのではないか。 ○ 年度当初に比べたら、ずいぶんと授業中の姿勢が立派になっている。先生方、子ども達の努力のためものである。 ○ 「立腰」については児童と職員との間で差がある。長時間の姿勢の維持は困難である。背筋を伸ばすだけでもいいのではないか。

